

蒸気機関車かSLか

菅 建彦 (交通協力会会長)

私が学生だった1960年代の前半、世の中にSLという言葉はなかった。1965年に国鉄に就職して初めて、鉄道部内では蒸気機関車のことをSLと略称していることを知った。会議や打合せの説明資料にいちいち蒸気機関車とか電気機関車などと書くのが面倒なので、略号を使い始めたのだと思われる。それでも、公式資料として世に出す統計資料や日本国有鉄道監査報告書の中では、きちんと蒸気機関車、電気機関車と表記していた。

その頃、ある出版社が『SL』という雑誌を刊行し、美しいモノクロ写真が読者を魅了したが、この表題が、国鉄部内略号SLが市中に流出した最初かと思う。この雑誌は数号出たところで休刊となったが、SLという語はそのまま世に残り、1970年代になって蒸気機関車の最期が近づくと大手を振ってまかり通り始めた。いまでは新聞記事やNHKの番組の中でも堂々と使われるが、私にはこれ

が悲しい。

SLという略号は、steam locomotiveを略したのだが、英語では決して使わないので注意を要する。例えば、英語版のWikipediaでSLと入力すると多数の語の略号であることがわかるが、その中にsteam locomotiveは含まれていない。

音韻的にも、エスエルという音は軽薄で、重厚無比の蒸気機関車のイメージに合わないし、鉄道創業以来一世紀以上にわたって我が国の近代化を牽引した最大の功労者に対して、甚だ失礼な呼び方である。面倒でもやはり蒸気機関車と呼び、できれば旧字体で蒸気機関車、振り仮名もジョウキキクワンシャとしたい。複雑な旧字体が、蒸気機関車のたくましい動輪、力強い主連棒と連結棒、精妙な弁装置を連想させて、誠にふさわしいではないか。

2017年度総会・見学会を開催

事務局 米山淳一

平成29年9月29日(金)～30日(土)、東武博物館が幹事となって総会・見学会を栃木県日光市の東武ワールドスクエア コンベンションハウス、交流会を同レストランでおこないました。

合わせて、見学会をNPO法人足尾歴史館・トロッコ部の主催で足尾歴史館に動態保存中のガソリン機関車と客車、さら

にわたらせ渓谷鐵道足尾駅構内に保存中の旧国鉄キハ30形気動車、入換用機関車など、歴史的車輛を見学いたしました。両日は、全国から会員、友の会会員ほか約80名が参加し、明るく、楽しく交流を深めました。

総会では、東武鉄道専務取締役(東武博物館理事長)三輪



秋晴れの足尾歴史館で全員揃って記念撮影。

'17.9.30 P:米山淳一



総会で挨拶に立つ代表幹事団体交通協力会管会長。 P: 米山淳一



「SL大樹」を熱く語る東武鉄道三輪専務。 P: 米山淳一



総会は80名あまりが参加して東武ワールドスクエア コンベンションハウスで行われた。秩父鉄道高柳鉄道部長の事例報告に聞き入る参加者。 P: 米山淳一

裕章さんから3年の歳月をかけて鬼怒川線で走り始めたC11 207号牽引の「SL大樹」の復活事業の経緯や苦労話が披露され、参加者の共感を集めました。復活劇には、JR北海道、JR東日本、JR西日本、JR四国各社や秩父鉄道、大井川鐵道、そして日本鉄道保存協会の協力があって成しえたことを三輪さんは強調されました。さらに、将来的には、さらに蒸気機関車運転の充実をはかるべく、機関車や客車の増備に関して触れられました。

活動報告では、見学会を前にNPO法人足尾歴史館・トロコ部、岡本憲之さん、北川 潤さんから同館内で修復後に動態保存をおこなっている昭和初期から足尾の町を走っていたガソリン機関車と客車の復元や保存活動に関して説明がありました。

総会終了後は、同スクエア内のレストランで交流会が行われました。同館のお心尽くしの美味しい料理をたくさん頂き、また会員の皆様からのお土産も配布され有意義な交流会となりました。



たいへん豪華な料理に大満足の交流会。

'17.9.29 P: 米山淳一

翌、30日(土)は貸し切りバスで日足峠を越えて足尾歴史館へ参り、永井館長さんのご解説で町の歴史や文化を学び、その後館の屋外に敷設されたナローゲージの線路を走るガソリン機関車など動態保存されている車輛に乗車しました。全国でも稀な活動に参加者は大満足でした。



2フィートゲージのフォード・ガソリン機関車と、5インチゲージのミニフォードが並走。 '17.9.30 P: 名取紀之



加藤製作所の4tディーゼル機関車が牽く列車。 '17.9.30 P: 米山淳一



足尾駅では車掌車に体験乗車。 '17.9.30 P: 米山淳一

帰路は、東武鬼怒川温泉駅から「SL大樹」に体験乗車となる予定でしたが、運悪くC11 207号が故障してしまいました。そこで急遽、いつもは後押し役のDE10形ディーゼル機関車をC11 207号の代役として14系客車の先頭に立たせ、「DL大樹」として運転されました。蒸気機関車でなくて残念の声も聴かれましたが、ディーゼル機関車の牽引する14系列車はとても珍しいと参加者ばかりか沿線に集まった鉄道愛好家も大喜びで、貴重な体験となりました。



懐かしい雰囲気の中14系客車内で寛ぐ参加者。 '17.9.30 P: 米山淳一

DE10形代走となった珍しい「DL大樹」。

'17.9.30 P: 米山淳一



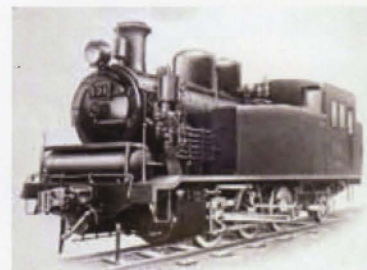
なお、来年2018年度の総会・見学会は小坂鉄道レールパーク(秋田県小坂町)が幹事を務めます。鉄道を含めて鉱山関連の歴史的遺産を近代化遺産として保存・活用、さらに特恵「あけぼの」号の24系25形客車を購入、列車ホテルとしても動態保存中です。今から楽しみです。ぜひご参加ください。

山田コレクション 102号の移設完了

当会が静態保存している北海道炭礦関連鉄道の蒸気機関車等の歴史的車輛の中では、三菱鉱業芦別専用線のC1タンク102号だけが江別市野幌車庫ではなく、元の所有者であった方の敷地内(江別市文京台)に残された形でした。この土地は、売却が決まっており、再三、関係の金融機関や開発業者から立ち退きを迫られておりました。そのたびに「移送費用がない」との理由で延び延びにしてきました。ところが、先方の関係の皆様のご多大なご尽力により、移送費用をご負担いただき、昨年秋に野幌車庫に移送することができました。

現在は、ブルーシートで全体を覆い野幌車庫外に保存中です。これも、江別市役所、関係金融機関や企業、近隣の皆様との信頼関係の賜物と心より感謝いたしております。

(事務局 米山淳一)



竣工時の僚機101号。ともに大江山ニッケル(加悦鉄道)に納入された立山重工業製の自重40tのC1機で、1942(昭和17)年製。

(大谷製鋼所製品案内より)



予備調査に際してブルーシートを外して久しぶりにその姿を現した102号。
'16.5.26 P:名取紀之



移設が完了した102号。シートで覆い、雪でも大丈夫。

P:米山淳一

C11 1号を東武博物館に譲渡

「SL大樹」の運転で大人気の東武鉄道は、将来にわたる保存運転を通じた地域活性化と観光の推進を図ることで事業を推進しております。そこで、このたび当保存協会で静態保存中のC11 1号(江若鉄道→雄別炭礦鉄道→釧路開発埠頭)を東武博物館に売却いたしました。売却価格は約400万円。今後、2018年内に野幌車庫から運び出し、東武鉄道に搬送する予定です。

復原、整備は、東武鉄道の全力を挙げて取り組む予定だそうです。引き続き当協会として協力をおこないたいと思います。

(事務局 米山淳一)



雄別炭礦鉄道時代のC11 1。

'69.2.11 鶴野 P:石川一造

column

犬顔の犬釘 名取紀之(顧問)

「犬顔の犬釘」を集め始めてかれこれ三十年近くになるでしょうか。近年ではPC枕木の普及やスラブ軌道化の進展などですっかり陰の薄くなってしまった犬釘ですが、その名の通り本来は犬の顔をしていたものです。古い文献にも「頭部が一見犬の頭部に似て居ると云ふので犬釘の名称がつけられた」(『軌道構造及保線』1942年刊)とあり、英語でも“dog spike”と称されます。ところがこの「犬顔」、極めてレアで、そう簡単には見つかりません。昭和期に入ると

小判型の頭部が標準となってしまったと思われますので、概ね百年以上前のものということになります。

写真は5年前、高崎で開催された日本鉄道保存協会2013年度総会の際に手に入れたものです。この時は開催地団体のJR東日本高崎支社が会場ホテル内にグッズショップを特設下さり、その中に1本500円の犬釘の山がありました。見るともなく見たその山の中に唯1本、この「犬顔」が埋もれていたのです。



歴史ある加盟団体の皆さんの足下にも、気付かれないまま「犬顔の犬釘」が残っているかもしれません。一度探してみられてはいかがでしょうか。

福井県から「SL調査」を受託

福井県では、北陸新幹線敦賀駅開業をにらみ、この沿線地域の観光活性化を目的に事業計画を推進中です。その拠点が敦賀市。明治政府は日本海岸と太平洋岸を結ぶべく、明治15年に敦賀から長浜(滋賀県)を目指し鉄道を敷設します。北陸本線の前身です。そう敦賀は、鉄道の拠点であり、遠くウラジオストクを経由して鉄道で欧州を目指す日本国の拠点でもあったのです。

その痕跡が敦賀港線です。敦賀港線跡の活性化の一つが蒸気機関車の運転です。蒸気機関車と言っても空気で動かす仕組みを採用予定で、その対象の車輛を調査するのがこの度の調査なのです。対象の蒸気機関車はC58ほか福井県内4輛、参考事例として当日本鉄道保存協会所有車輛2輛。それに牽引する客車も調査しました。

調査は、空気で蒸気機関車を動態保存する実績のある調査機関と協働し、調査報告書をまとめ成果として福井県に提出いたしました。

今後も、事業の推進に関して協力を行って参ります。

(事務局 米山淳一)



空気で動くD52 70号の山北町担当者ヒヤリング調査をおこなった。

P: 米山淳一



小浜公園での調査。入念な調査が行われた。

P: 米山淳一



福井県による現車調査。南越前町今庄でスタッフ記念撮影。

P: 米山淳一

TOPICS

全国でも稀な存在・鳥取市鉄道公園の現況

会員のNPO法人市民文化財ネットワーク鳥取の太田事務局長からご教示いただき同公園を訪ねました。

鳥取駅の高架化に伴い、駅南の再開発地にこの公園があります。縦横約100mの四角い敷地の中に旧鳥取駅ホームの一部約30mが上屋とともに移設、復元されています。一部軌道、分岐器、腕木信号機等をホームに併設しており、当時の面影を忍ばせる設えが秀逸です。特に、旧鳥取駅ホーム上屋を支える支柱が双頭レールを再利用している点が素晴らしいのです。

人影もまばら、たまに園内併設の公衆トイレに立ちよる人がある程度でとても寂しい感じです。全国でも珍しいこの鉄道公園をもう一度光り輝かせたいと思いました。

(事務局 米山淳一)



旧鳥取駅ホームが見事に復元された鳥取鉄道記念公園。

P: 米山淳一

RPSJ
information

2018年度総会・見学会のご案内

事務局

2018年度総会・見学会は9月21日(金)～22日(土)に小坂町交流センター(小坂町)で開催いたします。また、小坂鉄道レールパークでの取り組みを見学いたします。

小坂町は小坂鉱山の歴史的遺産を近代化遺産と位置づけ、保存し観光資源として活用している先進地です。

近年、新たに小坂鉄道レールパークを開設し、市民ボランティアと行政が力を合わせてDD130形やブルートレイン「あけぼの」など多くの動態保存を行っています。見学会を通して、小坂町のダイナミズムをぜひ実感してみてください。

■日本鉄道保存協会 会報 2018年9月号 編集・発行/日本鉄道保存協会

事務局/〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル9階903号 公益財団法人 交通協力会 気付
電話/03-6269-9808 FAX/03-6269-9809 RPSJ.tetsudo.hozon@gmail.com

※常勤者はおきませんので、電話での連絡は下記宛をお願いします。

米山淳一(事務局長): 080-5525-1571

菅 建彦(公益財団法人交通協力会理事長): 090-9101-3267 ホームページ <http://www.rpsj.jp/>